



四小だより

■よく考え学ぶ子 ■じょうぶでたくましい子 ■心の豊かな子

6月号

令和5年5月31日発行

新座市馬場3-6-1

048(478)3192

「ありがとう」という言葉の力

校長 岡野 信幸

5月に入り、冷たい雨が続いたかと思うと、一転して厳しい暑さを感じる日もあります。天気が周期的に変化し、時折夏日を挟みつつ、これからは梅雨の季節へと移り変わっていきます。

コロナは5類へと移行し、現在のところは感染者が出なくなりました。一方で、5月末には校内でもインフルエンザが流行するなど、別の感染症が流行しています。今後も状況を見極めつつ、教育活動を推進してまいります。引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

学校での教育活動は、少しずつコロナ前に戻しています。6月からは、「全校朝会」や「集会」等、全校児童が一堂に会することも行っていきます。この3年間は、原則としてこのような形態ではなかったもので、当面の目標として、「体育館に静かに入場し、静かに他の学年を待ち、静かに話を聞き、静かに退場する。」を掲げ、全校で実践していきたいと思っています。

「ありがとう」という言葉の意味

感謝やお礼の言葉として使われる「ありがとう」という言葉があります。「ありがとう」という言葉はどのような意味があるのでしょうか。

「ありがとう」は本来「有ること」が「難しい」という意味をもっており、滅多にないことや貴重であることを指す「有り難し」という言葉が語源です。そのような出来事に対する感謝やお礼の言葉として使われているのが「ありがとう」なのです。

「ありがとう」のもつ力

わたくしたちは「ありがとう」という言葉を周りの人にどれだけ伝えているのでしょうか。また、この言葉にどれほどの力があるのでしょうか。「ありがとう」という言葉はとても大切な言葉として、自分も小さい頃から教えられてきましたし、ご家庭での子育てにおいてもどのように教わっていると思います。

残念ながら、どれだけの効果があるのかは、数値では計れませんが、「ありがとう」という言葉は、言われた人も言った人にも良い影響があるとされています。つまり「ありがとう」という言葉のもつ力は、無限大だと思います。

家族の中でも「ありがとう」を

家庭内では、それぞれが何らかの仕事や役割を担っています。当たり前になにかをしたり、してもらったりしています。「言わなくても、分かってくれているだろう。」という気持ちがあるのも理解できます。しかし、そこから一步踏み出して、照れくさいかもしれませんが、「ありがとう」と言葉にするだけで、今よりはるかに良い信頼関係が生まれると思います。これだけで家事も仕事も頑張れる気がします。



「ありがとう」と非認知能力の育成

第四小学校では、学校経営方針の中心に子どもたちの主体性を育むため「非認知能力の育成」を掲げ、推進しています。「自己肯定感」や「自己有用感」または「学びに向かう力、人間性等」など、数値では表すことができない能力を育成し、学力向上へと繋げています。



まさしく「ありがとう」の言葉のもつ力は、「非認知能力」を育てることに繋がります。「ありがとう」は人の心を動かし、人を成長させる言葉なのです。

体育学習について

夏が近づき、気温の高い日が記録されるようになり、熱中症に対応する必要性が出てきています。

現在、体育学習では、熱中症予防のため、マスクを外すよう指導しています。

また、体育の際の肌着の着用は、自己判断に任せています。ご家庭でも気候に合わせた服装についてお子さんにお声掛けください。健康・清潔に過ごすために、肌着の替えや汗ふきタオル等、必要に応じてご用意ください。なお、洗濯等で乾かない場合は、替えのTシャツを持たせていただいても構いません。